

手術部

1 構 成 員

	平成 25 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
准教授	1 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	2 人	(2 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	4 人	

2 教員の異動状況

佐藤重仁（教授） H10.4.1～ 現職

栗田忠代士（准教授） H10.4.1～H19.3.31 助手；H19.4.1～H21.1.31 助教；H21.2.1～H24.2.29 講師；
H24.3.1～ 現職

森田耕司（助教） S53.4.16～H19.3.31 助手；H19.4.1～現職

木村哲郎（助教） H23.5.5～ 現職

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 24 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	7 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	14.02	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	3 編	(3 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	6 編	(6 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Kurita T, Uraoka M, Morita K, Sato S: Influence of progressive hemorrhage and subsequent cardiopulmonary resuscitation on the bispectral index during isoflurane anesthesia in a swine model. J Trauma Acute Care Surg ; 72, 1614-1619, 2012 [2.478]
2. Kurita T, Sato S: Does the bispectral index (BIS) during haemorrhagic shock and resuscitation reflect a change in cerebral perfusion or simply reflect the anaesthetic depth? Resuscitation 83(10): e193 2012 [3.601]
3. Kimura T, Suzuki A, Mimuro S, Makino H, Sato S: Bronchial intubation could be detected by the visual stethoscope techniques in pediatric patients. Paediatr Anaesth 22: 1185-1190, 2012 [2.149]
4. Kurita T, Uraoka M, Jiang Q, Suzuki M, Morishima Y, Morita K, Sato S.: Influence of cardiac output on the pseudo-steady state remifentanyl and propofol concentrations in swine. Acta Anaesthesiol Scand. 2013 Jan 24. [2.188]

インパクトファクターの小計 [10.416]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Mochizuki T, Yu S, Katoh T, Aoki K, Sato S: Cardioprotective effect of therapeutic hypothermia at 34°C against ischaemia/reperfusion injury mediated by PI3K and nitric oxide in a rat isolated. Resuscitation 83:238-242, 2012 [3.601]
2. Yamauchi-Satomoto M, Adachi YU, Kurita T, Morita K, Sato S: Cross-clamping of the descending thoracic aorta leads to the asymmetrical distribution of propofol during cardiopulmonary bypass surgery. Korean J Anesthesiol. 62(4):327-31, 2012 [0]

インパクトファクターの小計 [3.601]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 板垣大雅, 木倉睦人, 足立裕史, 土井松幸, 佐藤重仁: 腹部大動脈瘤に対するステンドグラフト内挿管術後の急性腎傷害の発生頻度と特徴についての考察～開腹人工血管置換術との比較～ 日集中医誌 19 353-8,2012 [0]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総説

(4) 著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 佐藤重仁, 鈴木利保: 周術期モニタリング 克誠堂出版 2012年

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 岩崎寛, 佐藤重仁: 臨床麻酔実践シリーズ5 周術期の危険な不整脈診断のポイントと抗不

整脈薬の上手な使い方 日本臨床麻酔学会 ライフメディコム 2012年

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 酒井順哉, 森田耕司: MDIC 標準テキスト 医療情報 (2012・第4版・改訂) ネットワークの役割と通信プロトコル 日本医療機器学会 2012年

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 木村哲朗, 五十嵐寛, 谷口美づき, 佐藤重仁: 椎間板ヘルニアが圧排した脊髄後索を硬膜外カテーテルが圧迫したことが原因と考えられた深部知覚異常を呈した1症例 ペインクリニック学会雑誌 20(1): 44-47, 2013 [0]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

1. 谷口美づき, 中島芳樹, 佐藤重仁: 硬膜外ブロックが有効であった肢端(皮膚)紅痛症の3症例 ペインクリニック 33(8) 1149-1152, 2012 [0]
2. 御室総一郎, 青木善孝, 小幡由佳子, 木村哲朗, 土井松幸, 佐藤重仁: 集中治療におけるレミフェンタニルの使用経験 臨床麻酔 36(1):35-39, 2012 [0]
3. 鴨下方彦, 伊藤裕美, 江間信吾, 水口智明, 長谷川敏彦, 森田耕司, 加藤明彦: 東日本大震災に際し、持続的血液濾過透析(CHDF)の補充液として重炭酸リンゲル液を緊急的に使用した2例、日本急性血液浄化学会雑誌、3(2): 158-160, 2012、 [0]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 板垣大雅, 石田千鶴, 青木善孝, 木村哲朗, 小島康裕, 土井松幸, 佐藤重仁: 中毒性表皮壊死症に対するデクスメドミジンの使用経験 日集中医誌 19(1): 91-92, 2012 [0]
2. 山口裕充, 小林充, 望月利昭, 白石義人, 佐藤重仁: 心肺蘇生法に反応しなかった大動脈弁置換後の患者の一例 蘇生 2012年8月 52-56 [0]

4 特許等の出願状況

	平成24年度
特許取得数(出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成24年度	
(1) 文部科学省科学研究費	3件	(265万円)
(2) 厚生労働省科学研究費	4件	(343万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件	(0万円)
(4) 財団助成金	0件	(0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件	(0万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	0件	(0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

- ・ 基盤研究(C) (研究分担者) 「非シナプス型細胞外腔一酸化窒素・ドパミン系神経伝達か

ら解析した麻酔作用機序の解明」 平成 22 年度～平成 24 年度 平成 24 年度 2 万円

- ・ 基礎研究(C) (研究代表者) 「運動療法が高齢者の心筋保護効果を示すメカニズムについての研究」 平成24年度～平成26年度 平成24年度120万円
- ・ 基礎研究(C) (研究代表者) 「出血性ショック時の静脈麻酔薬の薬物動態力学への影響」 平成23年度～平成25年度 平成24年度143万円
- ・ 挑戦的萌芽研究 (研究代表者) 「心拍周期の最大変動量は輸液応答性閾値を示す 平成23年度～平成25年度 平成24年度78万円

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	3 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	5 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	13 件
(6) 一般演題発表数	1 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

- ・ Kimura T: External nasal dilator strip improve oxygenation in intensive care patients. 2012ESICM (European society of intensive care medicine) 2012 年 10 月 リスボン (ポルトガル)

ポスター発表

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
- 2) 学会における特別講演・招待講演
 - ・ 教育講演 佐藤重仁： 大腿静脈遠位側穿刺に未来はあるか？ 第 8 回日本医学シミュレーション学会学術集会 2013.02.09-10 浜松市

- ・ 招待講演 栗田忠代士： 静脈麻酔について知っておきたいこと 金沢麻酔講演会
2012.03.16 金沢市
- ・ 基調講演 森田耕司： ドイツにおけるシミュレーターセンターの現状と課題 第8回日本医学シミュレーション学会学術集会 2013.02.09-10 浜松市

3) シンポジウム発表

4) 座長をした学会名

- ・ 日本麻酔科学会第59回学術集会
- ・ 東海・北陸ペインクリニック学会東海地方会
- ・ 日本ペインクリニック学会第46回大会
- ・ 日本臨床麻酔学会第32回大会
- ・ 第8回日本医学シミュレーション学会学術集会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

佐藤重仁

- ・ 日本臨床麻酔学会 理事
- ・ 日本蘇生学会 幹事
- ・ 日本麻酔科学会 代議員
- ・ 日本ペインクリニック学会 評議員
- ・ 日本循環制御医学会 評議員
- ・ 日本麻酔科学会東海・北陸支部東海地区支部 理事オブザーバー
- ・ 日本臨床麻酔学会編集刊行委員長
- ・ 日本蘇生学会編集委員
- ・ 日本ペインクリニック学会東海北陸地区 評議員

栗田忠代士

- ・ 日本麻酔科学会学術集会企画専門部会麻酔科関連ワーキンググループサテライトメンバー

森田耕司

- ・ 日本麻酔・集中治療テクノロジー学会 評議員
- ・ 日本静脈麻酔学会 評議員
- ・ 日本医学シミュレーション学会 評議員
- ・ 日本医学シミュレーション学会 高機能患者シミュレータ 代表世話人

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

- (1) 国内の英文雑誌等の編集
- (2) 外国の学術雑誌の編集
- (3) 国内外の英文雑誌のレフリー

9 共同研究の実施状況

	平成 24 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

- (1) 国際共同研究
- (2) 国内共同研究
- (3) 学内共同研究

10 産学共同研究

	平成 24 年度
産学共同研究	3 件

【新産業創出会議、医工連携スタートアップ支援事業】

1. リハビリテーション支援ツールとそのネットワーク化による新たなサービス方式の実用化研究 (有)池田電子工学研究所 常葉浜松大学保健医療学部作業療法学科との共同申請 (不採択)
2. 「病院手術室内の医療機器に対する地震対策器具の開発」 (株)アイエルとの共同申請 (採択)

【知財活用推進本部／産学官共同研究センター管轄事業】

1. 「打刻式プリンターを用いた手術器具 (鋼製器具) の管理」 (株)ローランド DG、(株)上島電興社との共同事業に伴う研究会立ち上げ、工場見学、本学材料部見学など

11 受賞

- (1) 国際的な授賞
- (2) 外国からの授与
- (3) 国内での授賞
 - ・ 堀悦代, 栗田忠代士, 牧野洋, 佐藤重仁: 公益社団法人日本麻酔科学会東海・北陸支部第 10 回学術集会最優秀演題 2012 年 9 月

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 出血性ショック時の静脈麻酔薬の薬物動態
動物 (ブタ) を使用した静脈麻酔薬の薬物動態に関する研究を引き続き、臨床での応用を行っている。大血管手術時に麻薬性鎮痛薬であるレミフェンタニルと静脈麻酔薬のプロポフォール血中濃度を測定しながら出血性ショック、敗血症性ショックについての研究が進行中で学会発表、論文作成も進行中である。
2. 周術期患者予後に与える術前運動負荷の効果
昨年までスポーツが虚血性発作時の予防に関する研究を行ってきた。この延長線上の臨床研究として運動者と非運動者で術後の回復に与える影響を調べた。高齢者の健康

維持が社会問題化していることから、とくに高齢での効果を検討している

3. 心肺蘇生後の低体温療法に関する研究

心肺蘇生後に低酸素性脳症がの予防策として低体温療法が行われている。低体温療法の心筋保護効果に関与する機序の解明を行ってきた。ラットの孤立心筋モデルを用いて低体温時の心筋保護効果に関する研究を行ってきた。

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

1. 製薬会社と協同で行ってきた新しい静脈麻酔薬の治験が第 III 相試験に入った。浜松医大麻酔科が中心となり全国 50 施設で一斉に第 III 相試験が開始された。麻酔導入の速さ、循環抑制の程度、覚醒の速さなどから従来の静脈麻酔薬より非劣性であることが解明された。

2. ラット運動負荷モデルの作成

ラットの運動負荷モデルを完成させた。5 匹のラットを同時に運動負荷できる器材は購入した。高齢ラット一定時間の運動を 4 週間負荷したのちラット孤立心筋モデルで虚血再還流を行い、梗塞層の変化を観ている。

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. 「運動負荷ラットの心筋梗塞層の変化」を孤立心筋モデルで観察している。運動負荷の効果が判明すれば画期的である。広く一般臨床でも応用が利く領域であり、日本の高齢化問題に大きく貢献できると思われる。

2. 無痛分娩プロジェクトの継続

硬膜外カテーテルを留置し、分娩まで妊婦の疼痛管理を麻酔科医が従事する無痛分娩は国立大学病院では稀である。希望者も徐々に増加し、現在は右肩上がりである。本院の設備、ベッド数から受け入れ数は頭打ち状態になりつつある。今後はより質の高い無痛分娩を追求に努めたい。今後は臨床研究を国際学会でも発表していきたい。

15 新聞，雑誌等による報道

1. 佐藤重仁： カウザルギーについてのインタビュー 静岡第 1 テレビ 2013 年 1 月
2. 森田耕司： 静岡経済 挑戦静岡の大学③ 静岡新聞 2013 年 2 月